

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福井県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	敦賀市立栗野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	30
児童数	97	92	102	119	106	96	4	616	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を保障するための指導法の探求 - 個に応じた指導のための指導方法の工夫 -
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1, 2年生算数におけるTT指導 1クラスあたりの人数が多く, 教員の目が届きにくいことから理解度に差が出てくることが予想されるため</li> <li>・ 3~6年生算数における少人数指導 理解度の差に応じた指導が有効であると考えたため</li> <li>・ 5, 6年生における教科担任制 内容に専門性を多く必要とされる学年で, 児童の興味や関心に応じたより深い学習を展開させるため</li> </ul>
--

(2) 年次ごとの計画

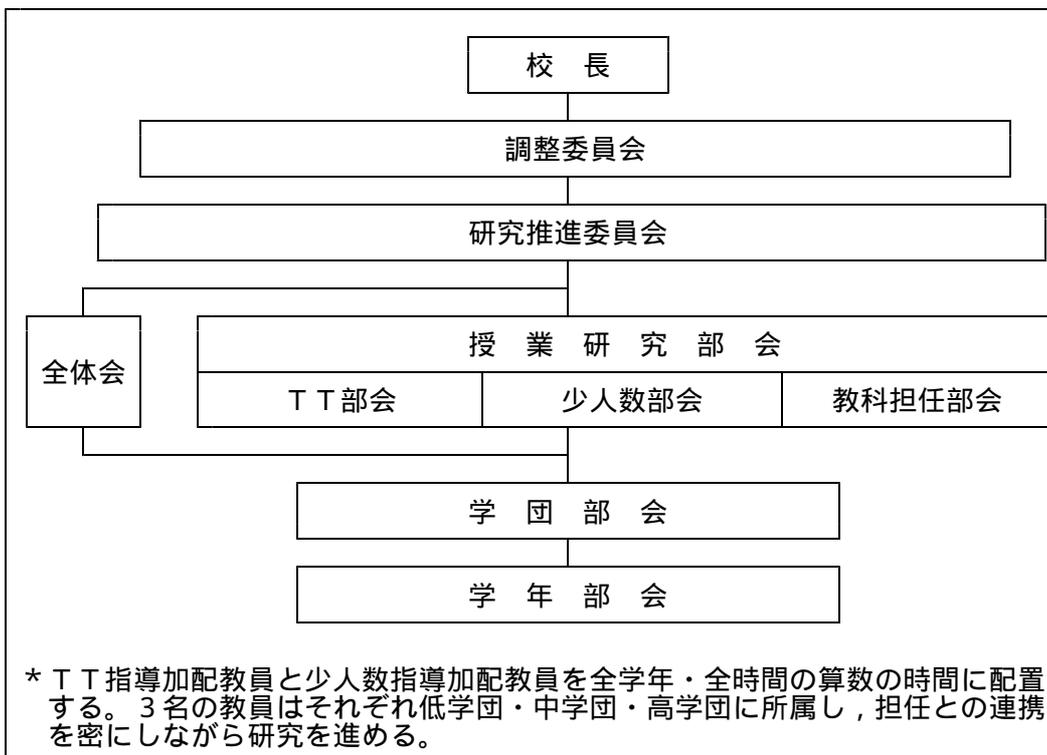
平成14年度	<p>テーマ 確かな学力を保障するための指導法の探求 - 基礎基本を大切にされた教育活動 -</p> <p>研究の見通し(仮説) (1) 算数科においてTTおよび習熟度別指導により, きめ細かで個に応じた指導が展開できると考える。 (2) 教師の専門性を生かし教科担任制に取り組むことで, 専門性を生かした指導で児童の力をより伸ばすことができると考える。 (3) 計算力, 漢字力などの基礎的・基本的知識技能の充実が児童のやる気を引き出し, 学習への意欲に結びつくと考えられる。 (4) 朝読書の実施および図書ボランティアとの協力・連携による読み聞かせを通して, 読書の楽しさを学び, 聞く態度が育成されることが考えられる。</p> <p>研究内容・方法 (1) 特に算数科における基礎基本を大切にするため, TTおよび習熟度別指導に取り組む。複数教員または少人数グループでの指導により, 個に応じた指導をすることができる。 (2) 5・6年生で教科担任制に取り組む。3名の学級担任がそれぞれの専門教科を担当しあう。専門性を生かし, 児童の興味関心に対応することはもちろん, 担任以外の学級に関わる時間が増えることで生徒指導にも役に立っている。また, 中学校の教科担任制にもスムーズに移行できる経験となる。 (3) 計算力, 漢字力の向上をねらって, 授業の始まりの5分間を復習の時間とし, 計算練習・漢字練習の時間に当てる。基礎的・基本的知識技能の充実が児童のやる気を引き出し, 学習に前向きに取り組む姿勢を促している。 (4) 毎朝15分の読書, 週1回の担任および図書ボランティアの読み聞かせを行う。読み聞かせした本は記録に残し次の本の選定の参考とする。</p>
--------	--

平成 15 年 度	<p>テーマ 確かな学力を保障するための指導法の探求 - 個に応じた指導のための指導方法の工夫 -</p> <p>研究の見通し (1) 「できる喜び」「わかる楽しさ」を感じることができれば、学ぶことへのやる気や意欲が向上するであろう。 (2) 興味関心をもち、既習の知識や技能を用いて自分なりに解決できる学習課題に取り組めば、筋道をたてて考える力が向上するであろう。 (3) 学習を振り返り、自分の考えをより確かなものにし、友だちの考えのよいところを見つけたりする活動を通して、自分を表現する力が向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1) 指導方法の工夫 ・ 1時間ごとに児童に「できたことへの成就感」「わかることの楽しさ」を味わわせ、学ぶ意欲を高めしていくには、算数科が最も適していると考え、算数科を通して研究を進める。 ・ 低学年においては、個別支援を充実させ、課題を解決する力、新しい課題に挑戦する力を養うために、TT指導を実施し複数の担当で学習を進める。 ・ 中高学年においては、一人ひとりの能力に応じた学習を行い、学ぶ意欲の向上をめざし、最後まで課題をやり遂げる力を養うために、習熟度別による少人数学習集団を編成し学習を進める。 ・ 「考える」「高める」「振り返る」活動を大切に、授業を構成する。 (2) 学びの機会の充実 ・ 算数の基礎学力向上を図るために、「粟小パワーアッププリント」を活用する。 ・ 授業での学習をより確かなものにするために、家庭学習の充実を図る。 ・ 自らの課題を追求したり、学習内容を定着させるために、学習スキルの育成を図る。 ・ 身近な生活の中にある算数に触れることができる学習環境を充実させる。 (3) 指導に生かす評価 ・ 児童の問題解決の過程をつかみ評価し授業改善に生かすために、ねらいに即した課題を設定する。 ・ 理解度や満足度をはかり次時の授業構想や支援の工夫に生かすために算数日記を活用する。</p>
--------------------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 確かな学力を保障するための指導法の探究 - 「できる・わかる・考える」楽しさを味わう学びの充実をめざして -</p> <p>研究の見通し (1) 「できる喜び」「わかる楽しさ」を感じることができれば、学ぶことへのやる気や意欲が向上するであろう。 (2) 学びの機会を充実させ多くの学びを経験させたり、家庭学習を充実させたりすることで、学力の向上が図られるであろう。 (3) 学習を振り返り、自分の考えをより確かなものにし、友だちの考えのよいところを見つけたりする活動を通して、自分を表現する力が向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1) 指導方法の工夫 ・ 各コースに応じた課題設定のあり方をさぐる。 ・ 意欲的に考えるためのヒントやステップを準備する。 ・ 授業を公開し批評し合うことで、教師の授業力の向上をめざす。 (2) 学びの機会の充実 ・ 「粟小パワーアッププリント」を活用した基礎学力アップを進める。 ・ 補充的学習、発展的学習の教材を開発する。 ・ 家庭学習の充実と学習スキルの育成を図る。 (3) 指導に生かす評価 ・ 児童の問題解決の過程をつかみ評価し授業改善に生かすために、ねらいに即した課題を設定する。 ・ 自己評価(算数日記など)のあり方と自己評価を生かした課題設定のあり方をさぐる。</p>
--------------------	--

### (3) 研究推進体制

#### 研究組織



#### 研究の方法

児童一人ひとりの確かな学力の向上のために、次の3つの視点から研究に取り組むこととした。

##### 1 指導方法の工夫

(1) 個に応じた指導への取り組み …… 算数科の授業

1・2年生を対象にT T指導を、3年生以上を対象に習熟度別少人数指導を行った。興味関心や、理解の速さに応じたきめ細かな指導を行うため、単元や内容によって学習形態や指導計画を工夫した。

##### T T 指導

T T 指導とは、1つの教室に学級担任とT T担当の2名の教師が入り指導にあたる形式を指す。1・2年という発達段階を考慮し、個に応じたきめ細かい指導をするために算数を中心に行っている。

##### 分担T T

1人が授業を進め、もう一方がその補助をする1進1補型と2人が共にまたは交代しながら授業を進める2進型を組み合わせた型。

次のような場面で行う。

- ・学年初めの学習ルール確立のとき
- ・単元の導入時や学習課題を提示するとき
- ・自力解決のとき
- ・学習のまとめのとき

##### 習熟度別T T

児童の理解、習熟の程度に応じて学級を分けて、2人が別々に指導する2別2進型。

次のような場面で行う。

- ・授業後半部『試す』の場面で個人差が見られるとき
- ・単元のまとめの段階で、理解や習熟に個人差が見られるとき

### 課題別TT

児童の興味・関心に応じて学級を分けて、2人が別々に指導する2別2進型。

共通課題の理解ができ、さらに学習への意欲を高める場面で行う。

### 習熟度別少人数指導

3年生は、3学級を3コースに4分割。4年生以上は、1学級を2コースに分割して、習熟度に応じた小集団を編成している。どの学年も「発展コース」は少人数担当教員が受け持ち、「発展的な学習」にも対応している。内容を系統的に考えやすいこと、4年以上の場合1回で3クラス分準備できるのでより綿密な計画を立てやすいなどの理由からである。また、「基礎コース」を学級担任が担当し、理解に時間がかかったりレディネスが完全でなかったりする児童に対し、担任だからこそできる心の通う温かな支援やきめ細かな指導に心がけた。

各コースにおける主な手だて

### 基礎コース

- ・考える場面では、数値を平易な数に置き換えたり、具体物を用いたりする。
- ・レディネスが十分でない場合が多いので、既習事項を振り返りながらスモールステップで学習を進める。

### 標準コース

- ・基礎基本の定着を図りながら、場合によっては、「発展的な学習」や「補充的な学習」を行う。

### 発展コース

- ・難度の高い問題から始めることも多く、話し合いで問題解決をはかっていく授業展開を設定する。
- ・「発展的な学習」に取り組ませる。

## 2 学びの機会の充実

### (1) 「粟小パワーアッププリント」による振り返り学習

児童が自分のつまずきに応じ、振り返って復習しようとするとき、その手だてとなる教材として本校独自の「粟小パワーアッププリント」を作成した。

各学年1名ずつとTT・少人数担当あわせて9名で、「プロジェクトA」チームを立ち上げ、夏休みを利用しプリント作成に取り組んだ。作成上のポイントとして次のことを確認した。

- ・つまずきに対応し段階的に振り返ることができるように、学年ごとではなく、内容別系統別に配列すること。
- ・各プリントには解答編の中で解き方の手順や考え方を示し、児童の力で振り返りながら学習できるようにすること。

できあがったプリントは合計146枚となり、学習室などに常備され、いつでも取らせるようになっており、「補充的な学習」にも活用してきた。

### (2) 発展コースにおける発展的学習

少人数指導における発展コースでは、指導計画を工夫し進度を少しずつ早め、発展的な学習に取り組んだ。

例えば、第5学年「面積」では、第7次までに8時間分の指導内容を終え、第8時には『台形』の面積を取り扱った。このように、指導要領の改訂前には取り扱っていたものを中心に組み込んだ。また、各時間の指導の中で課題を早く終えることのできた児童に対し、第3・4学年では、かけ算やわり算の学習の際にけた数を増やしたり、第5・6学年の分数の計算では帯分数の計算にも取り組んだりした。

### 3 指導に生かす評価

#### (1) 課題設定

評価を指導に生かすためには、単元の終わりに行う評価テストのデータだけに頼るのではなく、学習指導の過程における評価も工夫することが大切であると考えている。児童の問題解決の過程を判断し、そのつまずきに気づき指導に生かすために、1時間ごとのねらいを明確にし、授業を通して児童につけたい力を「課題」として位置づけた。

#### (2) 算数日記

授業の終わりには、「算数日記」を書いている。授業を振り返ることで、自分の学びの確認をしたり、新しい課題を見つけたりすることができる。また、自分の成長に気づき喜びを感じることができるとともに、次の学習への目標ができ、自分への励みにもなっている。

また、授業中の発言だけではわからない児童の思いを知ること、興味・関心の様子を知ることでもでき、授業中だけでは判断しにくい「関心・意欲・態度」の評価にも生かすことができる。

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果 ( : 児童 : 指導者)

##### 指導方法の工夫をしたことにより

進んで学習に取り組む姿が見られるようになり、ノートに自分の考えをまとめたり、自分の考えを発表したりすることに意欲をみせるようになった。計算の方法を考える過程を大切にしたり、毎時間の授業の中で計算タイムに取り組んできた結果、昨年度に比べ、計算力および学力調査の結果が向上した。(資料1・資料2)

児童は自分の学び方を見つめ、自分にあったコースを選択できるようになってきた。

TTや少人数の特性を生かした指導計画を作成し、個に応じた支援を工夫した。つまずきを予想し、ヒントやスモールステップを準備し指導にあたることができた。

講師による師範授業や授業研究会を通して、教材研究を深めたり、指導法を改善したりすることができた。

##### 学びの機会を充実させたことにより

身近な生活の中で算数に触れる機会が増え、図形や量に対する意識が高まった。

粟小パワーアッププリントを作成したことにより、指導者は担当の学年だけではなく、前後の学年とのつながりに改めて気付くことができた。それにより、現在指導中の内容がどのような学習を受けて成り立っているのか、また、その後どのように発展していくのかを以前にも増して意識しながら指導にあたることができた。

##### 指導に生かす評価を心がけたことにより

友だちの意見や発表の仕方に関心をもち、いいところを見つけたり、自分の発表に生かそうとする児童が増えてきた。

教師が児童一人ひとりの興味・関心や児童の学びの深さをつかむことができるようになった。

資料 1

計算能力学年課題通過率調査一覧表

		1年の内容	2年	3年	4年	5年	6年
6年生	2学期末	99.7	98.1	96.1	85.5	87.1	74.5
	1学期	99.1	97.4	95.9	82.4	89.8	
	5年時	98.5	95	94.2	73.5		
5年生	2学期末	98.9	97.7	92.6	72	83.1	
	1学期	98.8	94.4	91.7	73.4		
	4年時	97	91	81			
4年生	2学期末	98.5	94.7	91.3	80.5		
	1学期	98.4	92.8	89.1			
	3年時	98	91				
3年生	2学期末	96.7	93.6	75.5			
	1学期	95.5	91.2				
	2年時	93					
2年生	2学期末	95.8	93.5				
	1学期	97.1					
	1年時						
1年生	2学期末	97.9					
	1学期						

各学年の計算課題の中から10項目(資料2)を選び到達度評価をおこなう。  
ほとんどの学年で通過率が上昇している。  
前回調査より通過率が下がった ■■■ の部分については、  
・5,6年生では小数のたし算・かけ算の学習後のため小数点の取り扱いを混同したためと思われる。  
・2年生ではかけ算を学んだ直後なので、たし算とかけ算を取り違えたためと思われる。

資料 2 計算能力学年課題通過率調査 10項目の例

氏名	1年										2年							3年										
	足し算	繰り上がり	繰り上がり	0の足し算	引き算	繰り下がり	繰り下がり	三数の和	三数の数の計算	加減混合	計	二位+一位	二位+一位	二位+二位	三位と二位の筆算	九九	九九	九九	和の筆算作成	差の筆算作成	三位の筆算	計	三位+三位の筆算	三位+三位の筆算	十倍の計算	十で割る計算	二位×一位	
A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8	○	○	○	○	○	○
B	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9	○	○	○	○	○	○

資料 3

学力調査正答率調査一覧表(算数)

算数		全体正答率	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
6年	14年度	110.0	116.2	108.9	107.5
	15年度	107.8	102.9	109.3	111.8
5年	14年度	96.4	95.3	95.6	96.2
	15年度	99.6	98.4	97.4	99.9
4年	14年度	97.3	87.3	95.6	97.0
	15年度	101.8	111.1	101.4	98.5

平成14年度実施の県学力調査を追実施する。  
当該学年の県平均を100として比較する。

4年生,5年生についてはすべての項目で大きな伸びを見ることができた。6年生については、数学的な考え方で昨年度を下回ったものの、県平均を上回っている。他の2観点については昨年度以上に県平均を大きく上回っており、安定した学力の定着が見られる。

## 2. 今後の課題

確かな学力の向上をめざし、以下の点について今後研究を深めていきたい。

学ぶことへのやる気や意欲の向上のために

- ・ 習熟度別指導における各コースに応じた効果的な指導計画を作成する。
- ・ 補充的学習，発展的学習の教材を開発する。
- ・ 「栗小パワーアッププリント」を活用した基礎学力アップを進める。
- ・ 家庭学習の充実と学習スキルの育成を図る。
- ・ 授業を公開し批評し合うことで，教師の授業力の向上をめざす。

筋道をたてて考える力の向上のために

- ・ 意欲的に考えるためのヒントやステップを準備する。
- ・ 自己評価の在り方と自己評価を生かした課題設定のあり方をさぐる。

自分を表現する力の向上のために

- ・ 自分の考えをわかりやすくまとめるための，ノート指導を充実する。
- ・ 学び合いの中から，お互いの発表のよいところに気づくための指導の在り方をさぐる。

### 学力等把握のための学校としての取組

計算能力学年課題通過率調査（各学年で身につけるべき基本的な計算問題）

- ・ H14年度当初・H15年度当初・H15年度2学期終了時に実施
- ・ 通過率を比較し計算能力の定着の様子を知るとともに，本校児童のつまずきやすい課題を見つけ，その後の指導に生かすことを目的として実施する。

学力調査（H14年度県学力調査の活用）

- ・ H15年度2学期終了時に実施。
- ・ 昨年度の正答率と比較し，学力の伸びを確かめ，つまずきを見つけ，その後の指導に生かすことを目的として実施する。

児童および保護者の意識調査

- ・ H14年度当初・H15年度当初・H15年度2学期終了時に実施
- ・ 児童の学習に対する意識調査，本校の取り組みに対する保護者の意見の集約を目的として実施する。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年9月29日 授業研究会（於：敦賀市立栗野小学校）  
岡山大学黒崎東洋郎教授による師範授業を市内各校に呼びかけ，ともに参観し，授業研究会を実施する。

平成15年11月20日 授業研究会（於：敦賀市立栗野小学校）  
本校の研究の歩みおよび授業を公開し，実践研究の成果を普及させるために実施する。

平成14年11月27日 嶺南地区小中学校教育充実研修会における実践発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
 13～18学級                   19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
 一部教科担任制                   その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
 生活                       音楽                       図画工作                   家庭  
 体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無